

# は し が き

令和3年度は、2つのウイルスに悩まされた年でした。

1つ目のウイルスは前年度に引き続き「新型コロナウイルス」。依然としてコロナ禍からの出口が見えない中で、令和3年春からワクチン接種が本格的に開始されました。この接種事業については市町村が実施主体となりましたが、市町村を支援するため、多くの県職員がワクチン接種業務に従事しました。

2つ目のウイルスは「鳥インフルエンザウイルス」。県内の養鶏場で感染が確認され、県は鶏の殺処分などの対応に追われました。この対応においても、14万羽の鶏の殺処分を24時間態勢で行うという過酷な業務に、多くの県職員が従事しました。

ワクチン接種への対応と、鳥インフルエンザウイルスへの対応。いずれも、これまで経験したことのない業務を年に2つも経験した年となりました。

さて、令和3年度の我が国経済は、外国人の入国制限によるインバウンド需要の減少や、東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大に伴う半導体の部品供給不足等によって自動車の輸出・生産が落ち込むなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けました。

個人消費は、年度当初から9月末まで緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置（以下「緊急事態宣言等」という。）が断続的に発出され、経済活動の抑制や外出自粛などにより、外食や国内旅行などのサービス消費を中心に弱さが見られました。しかし、10月以降は緊急事態宣言等が解除され始め、ワクチン接種も進み、ウィズコロナの考え方の下で経済社会活動の水準が段階的に引き上げられるなど、個人消費の大きな落ち込みは見られませんでした。

企業業績は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、宿泊業・飲食サービス業などの対面型サービスを中心に非製造業で弱めの動きが見られました。一方で製造業は、海外景気の持ち直しに伴う輸出・生産の改善等を背景に、電子部品等の情報通信機械の需要増加が利益を押し上げるなど、部品供給不足の影響を受けながらも持ち直しの動きが続きました。

県内経済は、巣ごもり需要が続く飲食料品の売上は堅調に推移しましたが、観光や宿泊を中心としたサービス業では、県民割等を利用した宿泊など個人旅行に動きが見られたものの、低迷が続きました。主力産業である電子部品製造業は、電気自動車向けの生産が増加するなど、車載向けを中心に好調に推移し、また、雇用面を見ても、新規求人数は前年を上回り、有効求人倍率は高水準で推移するなど、緩やかに持ち直しの動きが見られました。

こうした中で、令和3年度の県税収入は、対前年度77億1,634万円増の996億3,378万円と2年連続で前年度を上回りました。その主な要因は、令和元年10月の税率引上げに伴う地方消費税の増収やコロナ禍からの景気回復に伴う法人事業税の増収によるもので、この結果、7年連続で900億円台の税収を確保することができました。

また、令和3年度決算における翌年度への未納繰越額は、新型コロナウイルス感染症に係る徴収猶予の適用事案の減少により、前年度を4億7,792万円下回りました。

この統計書は、令和3年度の県税決算を中心に、県税の概要と関係資料を収録したものです。本書を通じて本県における税の現状への御理解を深めていただければ幸いです。

令和4年12月

秋田県総務部税務課長 小林 伸也